繪本江戸土産　北

209

江戸みやげ四編叙

抑此冊子初輯より今茲四編に至るまで。江都に名高き勝景の地を写真を旨として。拙き筆に任せながら。幼童の画を翫ぶ。手本ともなれかしと思ふが故に山水艸木都て。草画の筆意にして其容を略して記すのみ。或は常に人群集して途あるも蟻の如くなるをも。

絵本
江戸
土産
四編
廣重筆
金幸堂
寿梓

僕は百分が一を図し其趣をしらしむる志
尚前の編に及ばざる神社仏閣の荘厳を
はじめ府下の遠境市中の繁華男女の風俗今目前に
見ることき景物を図せんと思ふ意なれ角
まれ高評ありてめでらるゝを庶幾

庚戌初冬　一立斎廣重述

小金井堤
両岸満花

其二 小金橋花見
多磨川上水堤
あるひは小金堤
ありこの橋ハ
今井村に
架ス享保
のころや
芳野及び桜川の桜を
一万株栽られて
より今僅に三百株あり
存すといへども花の比ハ
五彩白雲のごとく多摩川の
流を屈曲して宛も仙境に
ゐるの思ひをなせり

多摩川

武蔵第一の名流にして
その流れ二條にわかれ
大丸渡げに渡しにも
奥に至る西小河の秩父
および甲斐の山〻を望
東南に臨めバ堤塘連り
遥えて江河の風景
絶景の名境にして
所謂むさし野六玉川のその一なり

四ッ谷大木戸
内藤新宿
四や通りの末にして
甲州街道の出口なり
この宿を内藤新宿といふ旅店
多く軒をならべ人の
往来絶ず 南山の

井の頭上水の水流れて
急流早し
その中にさし出る石あり是を
一枚岩と唱ふ

高田馬場

山吹の里
姿見橋

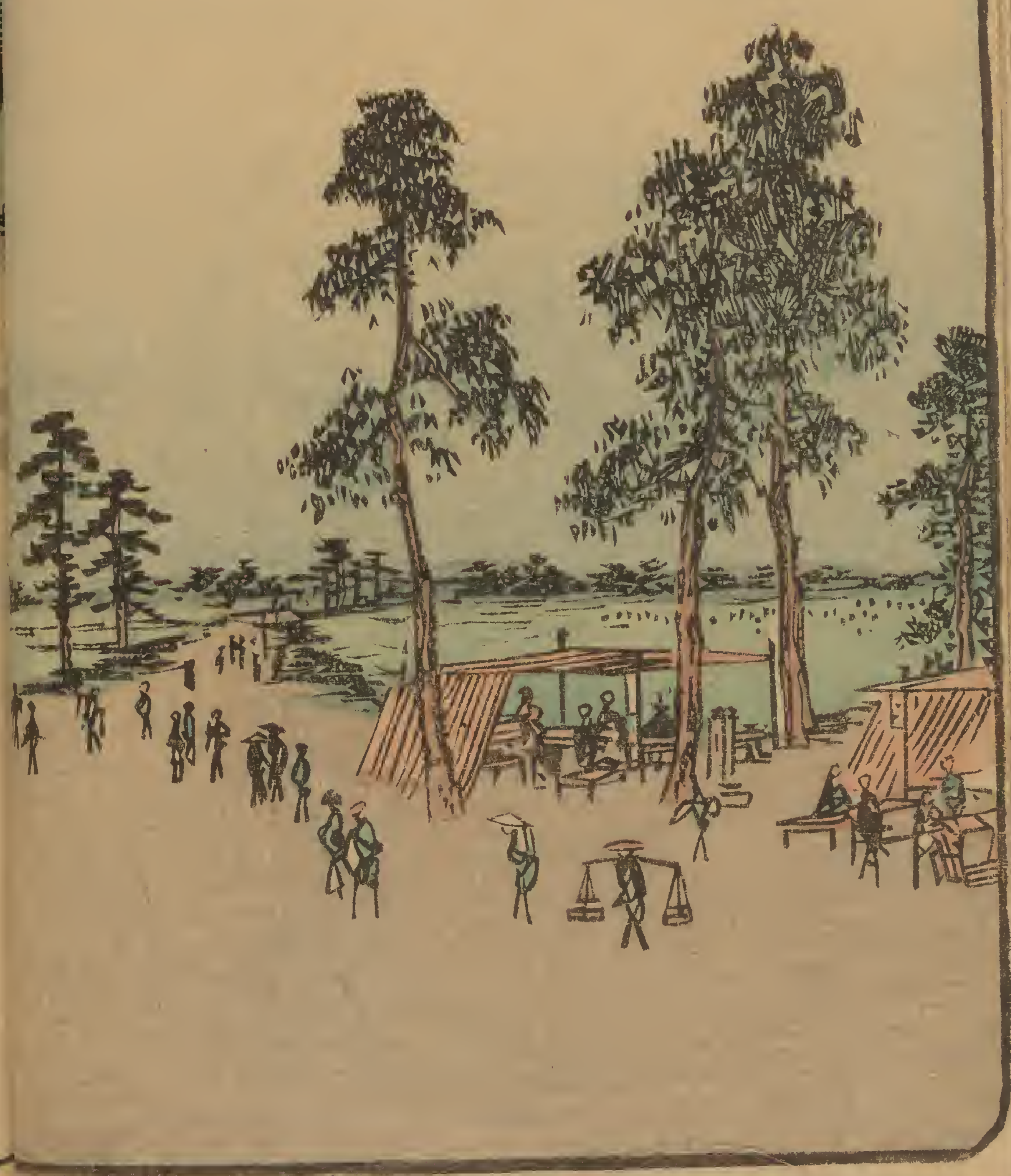
雑司ヶ谷鬼子母神 法明寺

この神出現の地は[illegible]より畑中にあたり清土といへる所の叢にふさき[illegible]祠ありて作めその処に祀りけるとぞこの神[illegible]が国中に[illegible]児をとりけるに[illegible]婦人どもに[illegible]日形をことごとく[illegible]あり毎年十月会式のとぎ参詣群集殊に賑ふ別当大行院[illegible]護持[illegible]

大塚護國寺
音羽町
神齢山悉地院と号ス
新義真言宗の大梵刹
なり境内不動尊
写しあり

巣鴨庚申塚

巣鴨より板橋の
あひだにあり建場なり
さゝやかなる茶店あり
此辺左右花とて
庚申をまつりて
月雪に絶ぬ景
なり

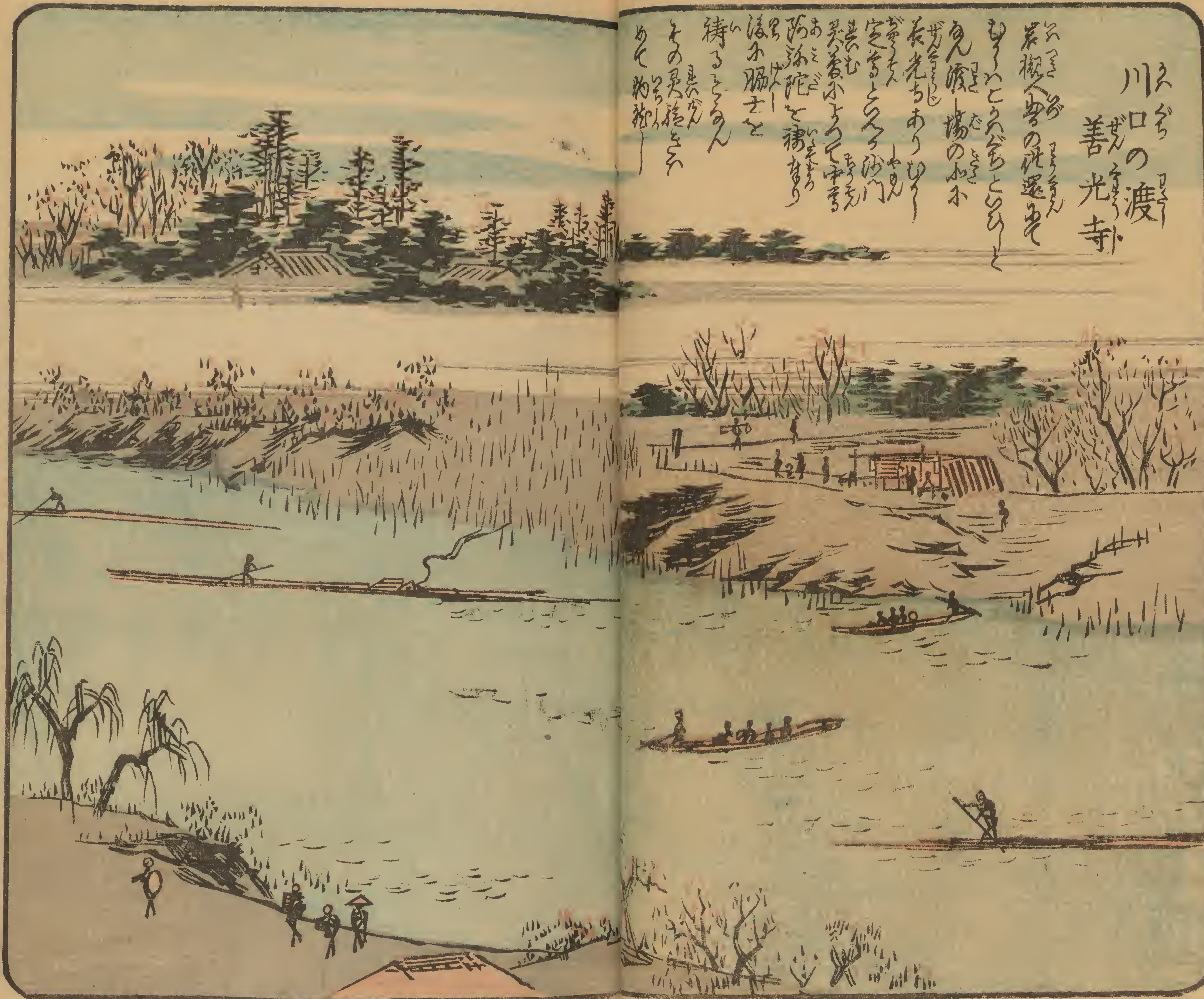


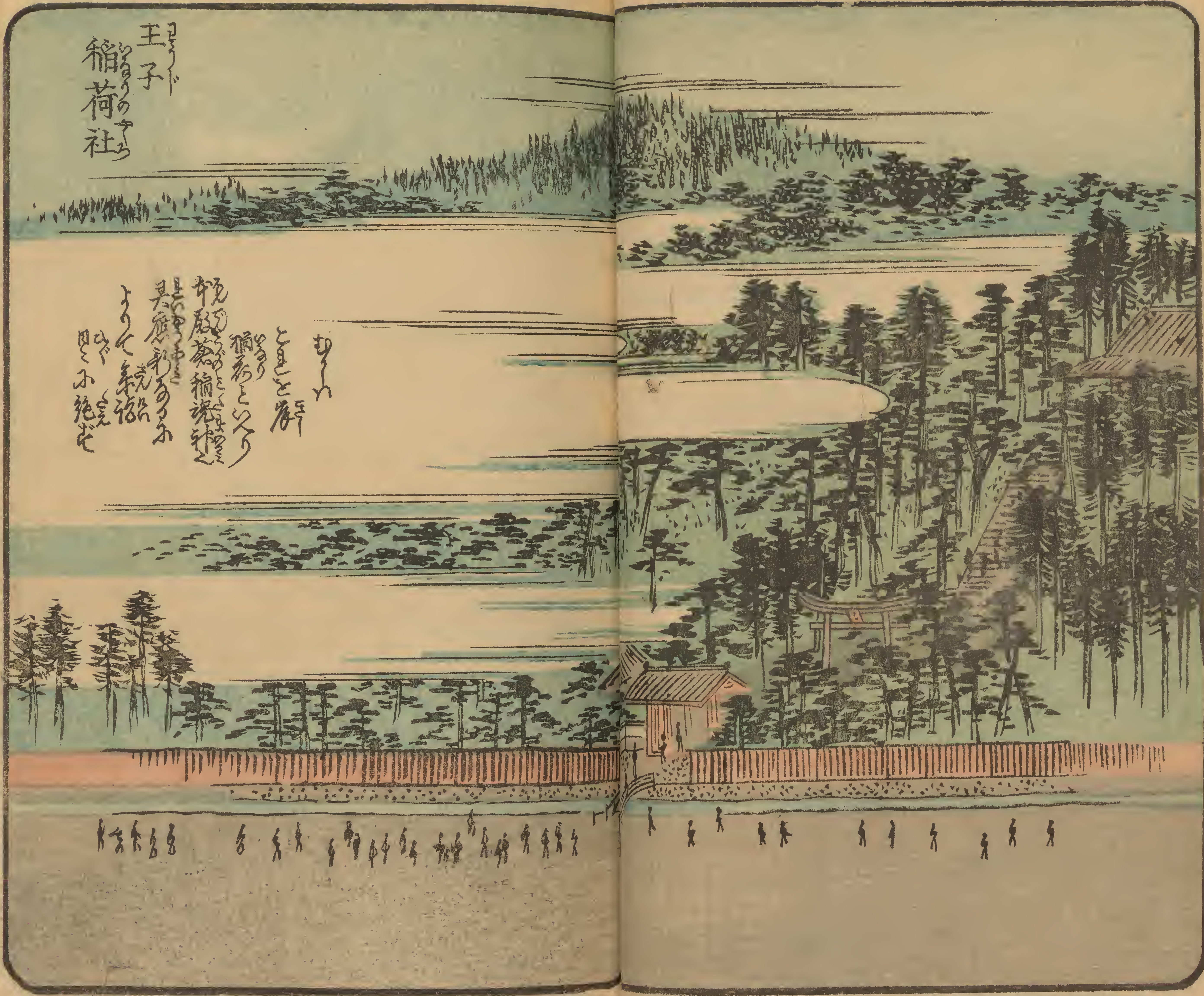
板橋驛

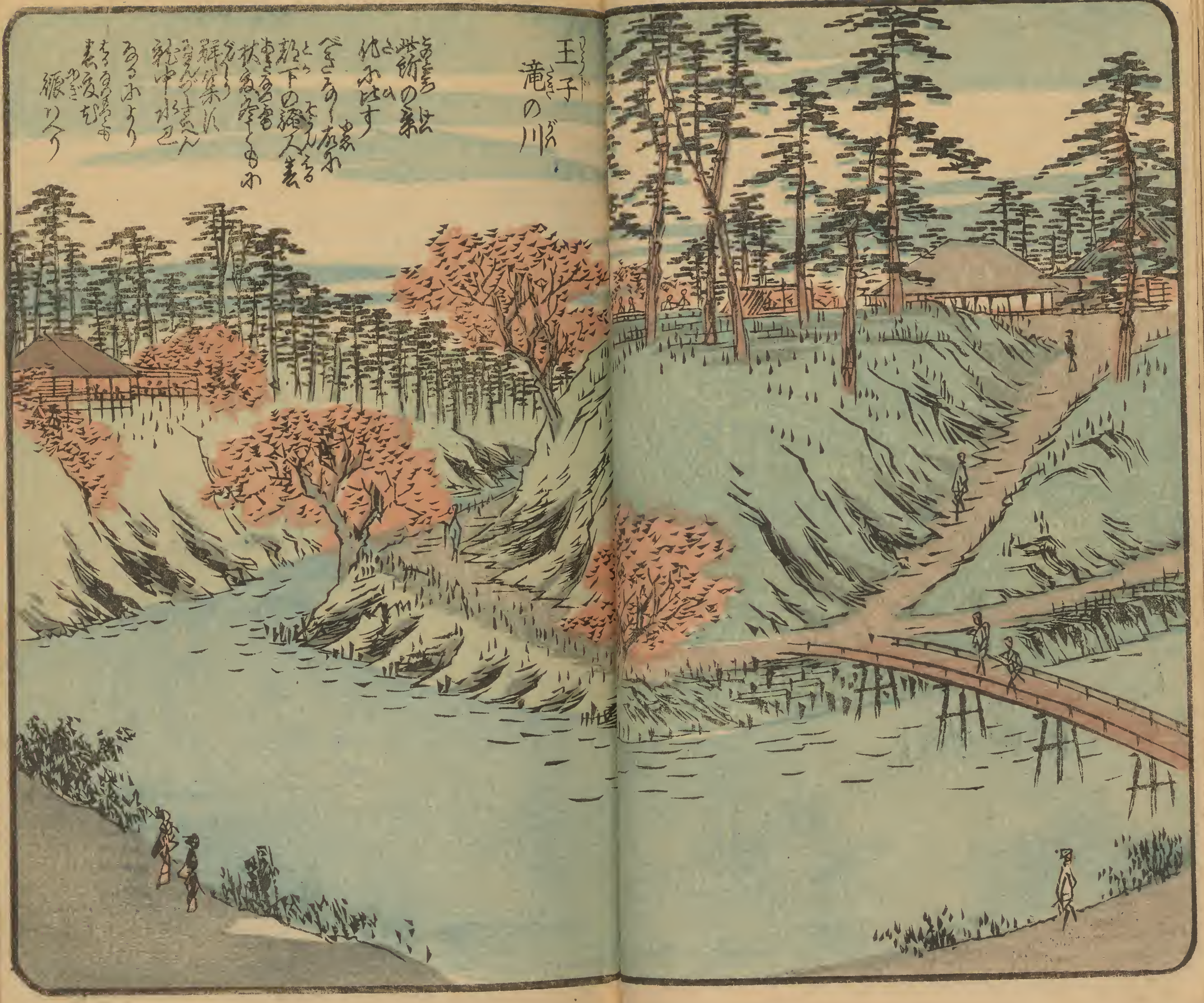
中山道の出口にて
日本橋より二里なり
別に此下板橋とて
料理や茶店あまたにて
上下旅行の人絶ず
この辺の繁栄せる
実に諸州の古戦場
多し

川口の渡 善光寺

岩槻人馬の往還にて
むかしハこゝ川ぐちといひし
も渡場の北に
善光寺ありむかし
定尊といへる沙門
善光寺に参りて中尊
阿弥陀を請たり
後ふ脇士を
鋳るとなん
その尊像を
めで秘佛し




王子稲荷社


王子
滝の川

其二 同所滝 岩屋の弁天

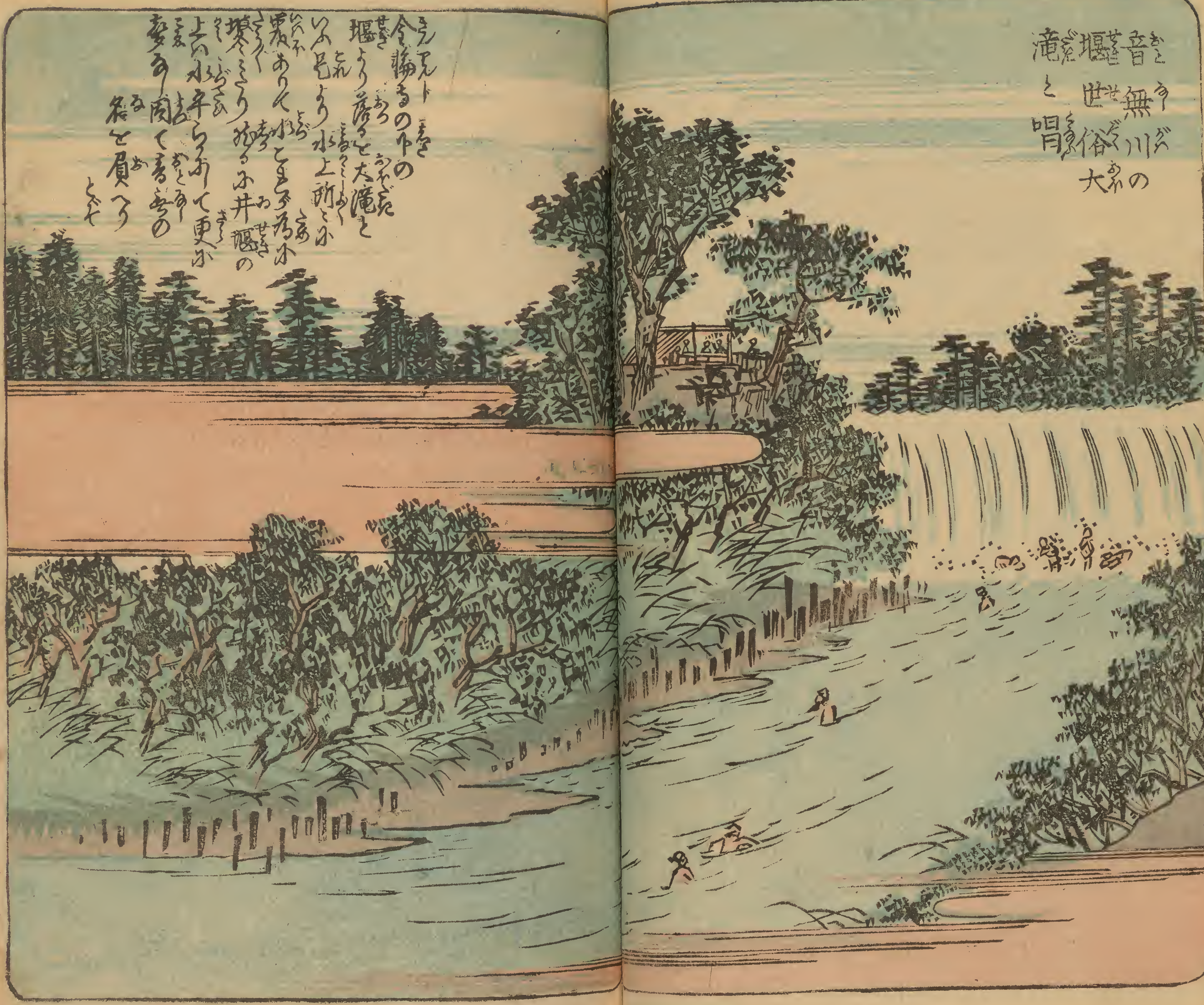
石神井川の流末なる
岩屋を像として自然のさま

十條の里 女滝 男滝

このあたりすべて瀧多く
見る者を
東武人この地の
景色
案内として滝の名を
昔よりせるものあり
その数十数箇所ともいふ

不動の滝

同所湯滝


音無川の堰
世俗大滝と唱
金輪寺の下の堰より落るを大滝といふ是より水上所々に岩ありて水とまる為に堰をつくる石神井堰の上は水平らかにして更に音なし其間にて音無の名を負へりとぞ

この辺の料理屋は川に臨みて亭を補理在人騒客の為に庭園を川原清うして水底の砂の玉のごとく小鮮の游ぐ眼前にありて実に宴席の絶景なり
王子料理屋 河辺の宴席

飛鳥山花見

この辺すべて芝生の丘にして桜樹百株あり毎春爛漫のときは貴賤老若こぞつてつどひて遊観の地となれ

此所地形高くして
三河島の耕地を
遥に見下し富士
および筑波の
山々宛然
掌中に在が
如く眺望最佳なり
のみならず此辺
秋葉権現の社あり
其の家あり

道灌山

日暮里諏訪の臺
日光
四時の眺望あるが中にも春は殊さら賑ひて青山の旅門人を引連れこゝに憩ひて筵をひらく実に遊楽の地といふべし

其二
同所寺院庭中雪の景
此寺院林泉の
風景尋常にあら
ざるを殊に枝ぶりならびし
雪の景色定然
佳境なるの光景を
かゝる時も一時の
奇観といふべし

其三
同所ゆき
古今冬

谷中螢沢

同所宗林寺の池を
付て螢沢といふ
この池の螢他に勝れて
光りありとて人をあつめ
夏月夜往来を
絶さぬものなし

絵本江戸土産初編　一立斎廣重筆

遠きあたりに名高き名所の地理は人これを知ると雖も掲出して真図に写しますます名高き遠国他郷の人々までその地理及び風光を見せんとそのつぎあれば江戸表の景色をあらはし実景の趣を梓に彫りつゞいて二編三編も物しぬれど早稲く竟に祝融の災に罹りて彫板焼失せり為有と言う彼に追叙金本堂再び板人の意外つぎに漫画の功せうかありぬ元を初編は大江戸の東南北如きとして八つ見に添ふ小梅より上を隅田川東西両岸の名所古跡ある又本所柳島亀戸の名所林中しき日本堂男女に拾ふよふ橋邊にまうさる吾妻の古跡にこえ千住雁渡の上亜堂中川木下川坂本大命に入れ名の風景を海辺とよふくに図して先づ初編となさんとの

繪本江戸土産二編　一立齋廣重筆

さきに初編のつゞきにて先たづねゆきける富岡八幡宮の辺より始まり日本三千之間堂洲崎の社新大橋三俣佃は白魚の〔?〕篝の浪〔?〕上〔?〕清正公か関の〔?〕のみとも都の隅田〔?〕品川宿〔?〕の〔?〕山〔?〕大森蒲田の梅〔?〕上の名勝の地を撰ぬきされば実に江戸のみやげの冠たるものなり

繪本江戸土産三編　全

これまで二編の地つゞきにて洲崎より多摩川の流れの末は六郷川〔?〕厄除大師羽田の弁天池上新田の社目黒の不動〔?〕坂本〔?〕茶屋の里〔?〕三縁〔?〕一本松〔?〕新田〔?〕の〔?〕関を入る〔?〕山王〔?〕の〔?〕妙法蓮華〔?〕權現〔?〕十二社〔?〕すべて〔?〕巨細に圖しぬ

清涼香

けのかれ〔?〕
おせかれ妙薬
のみ代袋入七拾二銅

一 世に清涼香ハ世に数ありといへども〔?〕[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

江戸賣弘所　馬喰町二丁目　菊屋幸三郎　[illegible]